

7.1

壁への固定金具の取り付け

コンクリート下地・GL工法：取付プレート埋め込み固定の場合

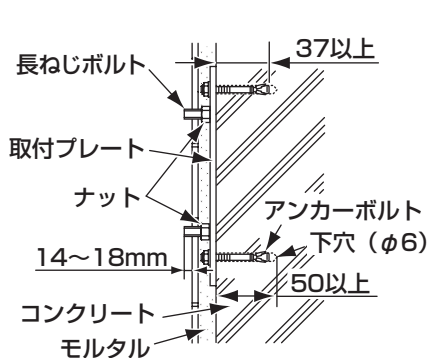
コンクリート下地の場合

固定金具品番 T110D49R+T110D51

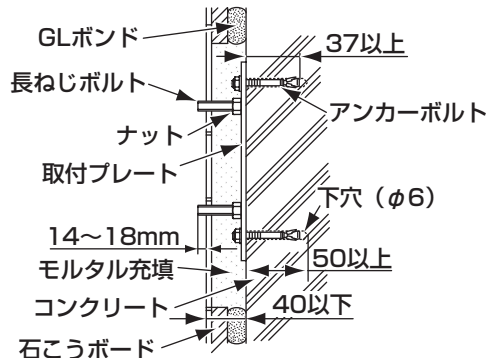
- ①心出しをしたあと、φ6mm、深さ50mmのアンカーボルトの下穴をあける。**注1**
- ②ナットをアンカーボルト上端から2mm程度ねじ込み、取付プレートの取付穴に通し、下穴に軽く打ち込む。**注2**
- ③アンカーボルトのナットを締め付ける。**注2**
- ④取付プレートのボルト穴に、長ねじボルトをねじ込み、ナットで締め付ける。**注4**
- ⑤壁仕上げ後、長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より14~18mmの範囲となるように調整する。**注3・4**

(単位：mm)

コンクリート下地の場合



GL工法の場合



注意

- 注1：**コンクリートにφ6mm、深さ50mmの下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと取付プレートの確実な固定ができないことがあります。
- 注2：**アンカーボルトのコンクリートへの埋め込み代は37mm以上となるようにしてください。
- 注3：**ボルトの出代が壁仕上げ面より14~18mmの範囲となるように調整してください。ボルトの出代がパブリック用はね上げ手すりとは異なりますので、注意願います。
- 注4：**ボルトの長さが短い場合は、M10長ねじボルトを現場調達してください。

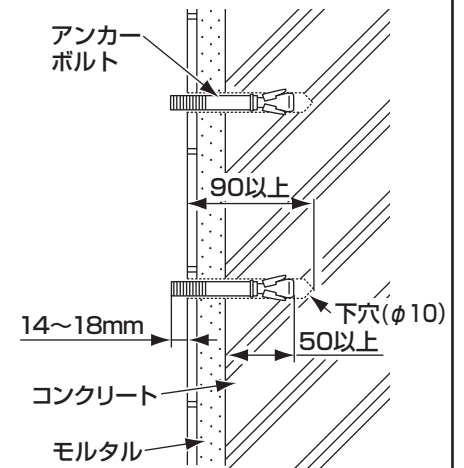
コンクリート下地：アンカーボルト固定の場合

固定金具品番 T110D17S

- ①心出しをしたあと、φ10mm、深さ90mmのアンカーボルトの下穴をあける。**注1**
- ②ナットをアンカーボルト上端から2mm程度ねじ込み、下穴に軽く打ち込む。**注2**
- ③アンカーボルトのナットを締め付ける。
(これにより、アンカーのクサビが開き、アンカーが抜けなくなります)
- ④アンカーボルトのナットを外す。
- ⑤アンカーボルトの出代が壁仕上げ面より14~18mmの範囲となるように調整する。**注3**

※固定金具に同梱のアンカーボルトのナットは商品を取り付けるときには使用しません。

(単位：mm)



注意

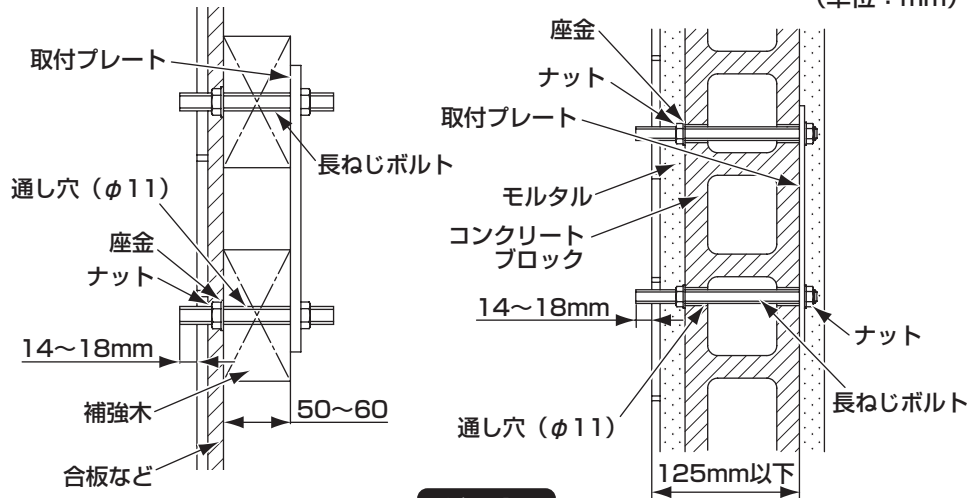
- 注1：**コンクリートにφ10mm、深さ90mmの下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。
- 注2：**アンカーボルトのコンクリートへの埋め込み代は50mm以上となるようにしてください。
- 注3：**アンカーボルトの出代が壁仕上げ面より14~18mmの範囲となるように調整してください。ボルトの出代がパブリック用はね上げ手すりとは異なりますので、注意願います。

木下地・コンクリートブロック下地：取付プレート挟み込み固定の場合

固定金具品番 T110D49R+T110D50

- ①木下地の場合、事前に商品取付部に厚さ50~60mmの補強木を取り付ける。**注1**
- ②心出しをしたあと、φ11mmの長ねじボルトの通し穴をあける。**注2**
- ③取付プレートのボルト穴に長ねじボルトをねじ込み、ナットで締め付ける。
- ④長ねじボルトを通し穴に差し込み、壁裏側に取付プレートを当て、商品取付側より座金、ナットで締め付ける。
- ⑤壁仕上げ後、長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より14~18mmの範囲となるように調整する。**注3・4**

(単位：mm)



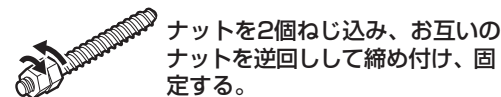
注意

- 注1：**木下地の場合、厚さ50~60mmの補強木を必ず取り付けてください。補強木は強度のある柱などにしっかりと取り付けてください。
- 注2：**コンクリートブロック下地の場合、空洞部をモルタルなどで埋める必要はありません。
- 注3：**長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より14~18mmの範囲となるように調整してください。ボルトの出代がパブリック用はね上げ手すりとは異なりますので、注意願います。
- 注4：**ボルトの長さが短い場合は、M10長ねじボルトを現場調達してください。

木下地：ハンガーボルト固定の場合

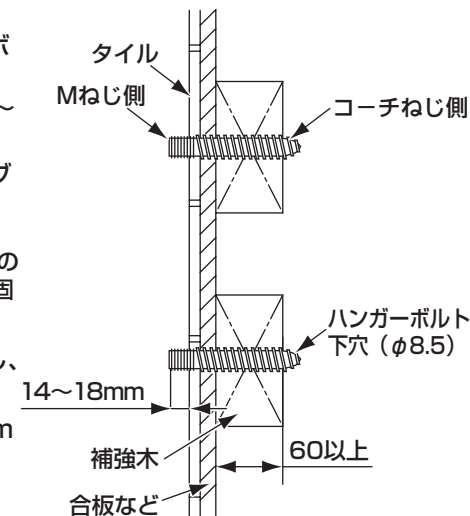
固定金具品番 T110D25

- ①事前に商品取付部に厚さ60mm以上の補強木を取り付ける。**注1**
- ②心出しをしたあと、φ8.5mmのハンガーボルトの下穴をあける。**注2**
(タイル壁の場合は、タイル部のみφ11~13mmの通し穴をあける)
- ③ハンガーボルトに同梱のナット(2個)をダブルナットで固定する。(下図参照)



- ④③で固定した、ダブルナットを工具で回し、下穴にハンガーボルトをねじ込む。**注3**
- ⑤壁仕上げ面よりボルトの出代が14~18mmの範囲となるように調整する。**注4**
- ⑥ダブルナットを取り外す。

(単位：mm)



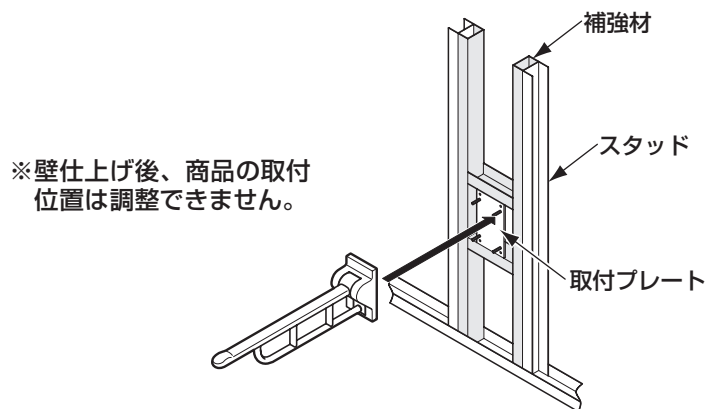
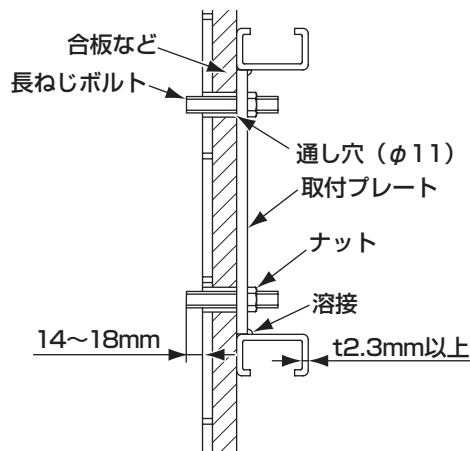
注意

- 注1：**厚さ60mm以上の補強木を必ず取り付けてください。補強木は強度のある柱などにしっかりと取り付けてください。
- 注2：**補強木にφ8.5mmの下穴をあけることのできるドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。
- 注3：**必ずナット(2個)をダブルナットとして壁にハンガーボルトを取り付けてください。
- 注4：**ハンガーボルトの出代が壁仕上げ面より14~18mmの範囲となるように調整してください。ボルトの出代がパブリック用はね上げ手すりとは異なりますので、注意願います。

軽量鉄骨下地：取付プレート溶接固定の場合

固定金具品番 T110D49R+T110D52

- ①心出しをしながら取付プレートを補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)に溶接固定する。**注1**
- ②取付プレートの穴に、長ねじボルトをねじ込み、壁仕上げ面より14~18mmの範囲となるように調整し、壁裏面よりナットで締め付ける。
- ③壁を仕上げる。**注2**



注意

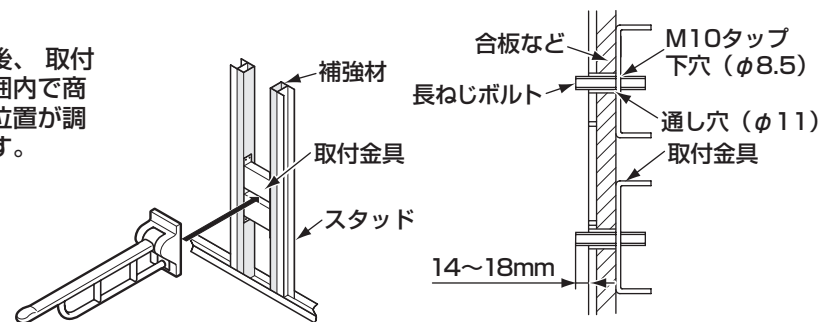
- 注1：補強材の軽量鉄骨はt2.3mm以上を使用してください。
- 注2：長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より14~18mmの範囲となるように調整してください。
ボルトの出代がパブリック用はね上げ手すりとは異なりますので、注意願います。

軽量鉄骨下地：ボルト固定の場合

固定金具品番 T110D36+T110D53

- ①商品取付位置に、軽量鉄骨用取付金具を補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)に付属のドリルねじで固定する。**注1**
- ②壁仕上げ後、商品の心出しを行い、M10タップ加工の下穴φ8.5mmをあける。壁仕上げ部にφ11mm程度の通し穴をあける。
- ③軽量鉄骨用取付金具にM10タップ加工を行う。
- ④長ねじボルトをねじ込み、壁仕上げ面より長ねじボルトの出代が14~18mmの範囲となるように調整する。**注2**

※壁仕上げ後、取付金具の範囲内で商品の取付位置が調整できます。



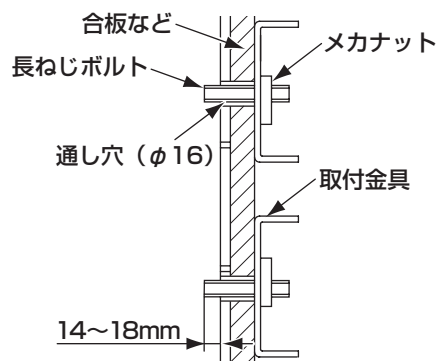
注意

- 注1：補強材の軽量鉄骨はt2.3mm以上を使用してください。
- 注2：長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より14~18mmの範囲となるように調整してください。
ボルトの出代がパブリック用はね上げ手すりとは異なりますので、注意願います。

軽量鉄骨下地：メカナット固定の場合

固定金具品番 T110D36+T110D54

- ①商品取付位置に、軽量鉄骨用取付金具を補強材の軽量鉄骨(t2.3mm以上)に付属のドリルねじで固定する。**注1**
- ②壁仕上げ後、商品の心出しを行い、メカナットの通し穴φ16mmをあける。
- ③メカナットを通して穴に挿入し、セットする。**注2**



注意

- 注1：補強材の軽量鉄骨はt2.3mm以上を使用してください。
- 注2：長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より14~18mmの範囲となるように調整してください。
ボルトの出代がパブリック用はね上げ手すりとは異なりますので、注意願います。

点検項目

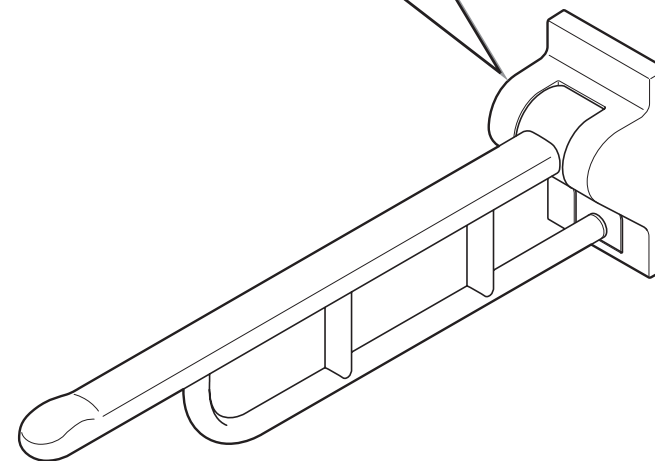
取り付けが完了したあと、次の項目を確認してください。

ガタツキの確認

商品にガタツキがないか確認してください。

商品は壁にしっかり取り付けていますか？

- ➡ **6** 「施工手順」および
- 7** 「壁への固定金具の取り付け」を参照し、対応ください。



※同梱の取扱説明書は、必ずお客様にお渡しください。